

第3学年保健体育科学習指導案

日 時 平成20年10月7日(水) 5校時
場 所 第1体育館
学 級 3年A・B組 女子35名
指導者 教諭 高橋美知留

1 単元名 ダンス(創作ダンス)

2 単元について

(1) 教材観

創作ダンスは個人や集団で表したいイメージをとらえて踊り、めりはりのあるひと流れの動きや簡単な作品などにまとめて踊る運動である。イメージは自然や生活、感情などにわたるが、走る・跳ぶ・回る・伸びる・縮むなどの全身や部分の動きや、集まる・離れるなどの群の動きを用いて多様に表現することができる運動である。また、創作ダンスの活動には、イメージする世界を表現してなりきって踊る楽しさや喜びがある。また仲間と動きを工夫し合って表現したり、見せ合って表現のよさを認め合ったり、感動を分かち合ったりする楽しさや喜びがある。

新学習指導要領では、ダンスが1・2年生においては必修、3年生においては選択となり、これまで以上に生涯スポーツの意味合いが濃くなっている。さらに、3年生では「感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表ができるようにする」ことを学習のねらいとし、「表したいテーマにふさわしいイメージを端的にとらえること」や「個や群の動きや緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化付ける」などの手立てが示されている。このようなことから、創作ダンスをつくる過程において、イメージの広げ方やより良い動きを創り出す方法を身に付けることが求められていると考えられる。

(2) 生徒観

「ダンスが好きですか」の問いに対して20%が「好き」、63%が「まずまず好き」と回答し、合わせると83%の生徒がダンスの授業に対して肯定的に捉えている。その具体的な理由として、「音楽に合わせて楽しく体を動かせるから」という内容が多く、他に「練習をしたら誰にでもできそうだから」と他の運動の領域と違っているため、競技スポーツと異なり、技術の習得が難しいとか、「できる」「できない」がはっきりしていないことなどを好きの理由としてあげている。「あまり好きではない」の生徒は17%で、その理由として「上手に踊れないから」が多く、中には「表現よりも、走ったり、投げたりの運動のほうが好きだから」などの理由をあげている。

また、運動に関するアンケートによると、保健体育の授業においては、運動に関する意欲はあるものの、運動に関する有用観は低い傾向が見受けられる。さらに、「少し難しい運動でも練習するとできるようになる自信がありますか」という問いに対しては1.9ポイント(3.0満点)となっている。この結果から、難しい課題に挑戦して達成されたという経験が乏しいのではないかとということが伺われる。

このようなことから、創作ダンスを通して、1つの作品を仲間とともに協力して創りあげるという活動から生徒一人ひとりに達成感や成就感を味わわせたい。

(体育に関するアンケートより 3点が満点)

体育ではみんなが楽しく勉強できます……………	2.5
せいっぱい運動することができます……………	2.6
どうしたら運動がうまくなるか考えながら勉強しています……………	2.3
友達や先生が励ましてくれます……………	2.6
運動が上手にできるほうだと思います……………	1.5
少しむずかしい運動でも練習するとできるようになる自信があります……………	1.9

(3) 指導観

創作ダンスは、仲間と動きを工夫して感じを込めて踊ったり、見せ合って表現を分かち合う喜びが味わえるようにすることが大切だと考える。そのため、心と体を開放しだれとでも踊れるように、仲間とのかかわりや学習の雰囲気をつくり出すことが大切であるとも考える。また、仲間の動きや考え方に対して、たくさんの気付きがあり、その気付きを大切にすることによってお互いの豊かな人間関係を構築できると考える。

そこで、以下の点を工夫し指導にあたる。

ア 課題のもたせ方の工夫

- (ア) 能力に応じた課題を設定出来るように、できそうな動きや、やってみたい動きを提示する。
- (イ)ブレインストーミングと設計書づくりによりイメージを多様に広げ、個性や能力に応じて表現しようとする意欲を喚起する。

イ 学習活動の工夫

- (ア) ダンスウォーミングアップで楽しく体をほぐす活動を取り入れる。
- (イ) 小作品づくりでは2～4人の小グループを活用し、作品づくりでは5～6人グループを活用するなどグループづくりを工夫する。
- (ウ) 毎時間の中に見せ合いの場を設定し、生徒の評価能力の育成を図る。

ウ 評価の工夫

- (ア) ダンスのDVDを活用し、視点を与えて見せる。
- (イ) 気づきや動きのポイントを全体で交流したり、共有する場面を設定する。

エ その他の工夫

合唱コンクールの学級自由曲を創作ダンスの曲として使うこと

本校の3年生は「総合的な学習の時間」で1年次から表現することを通して、課題解決を図る学習を進めてきている。(1年次：創作劇 2年次：修学旅行事前プレゼンテーション)そして、今年度は、合唱コンクールの課題曲において、学級ごとの表現活動に取り組んだ。

生徒たちの話し合いにより、A組の自由曲「Circle of Life」のイメージは「喜び・にぎやか・楽しい感じ」をあげ、題は「原始人の祭り」となった。B組の自由曲「砂丘」のイメージは「さらさらと流れていく感じ」とし、題は「砂時計」である。

創作ダンスの目標から、合唱コンクールの自由曲を使うことによって、イメージを出し合い、そのイメージにふさわしい動きや感じを込めた動きを工夫していくことをねらいとする。

3 単元の目標

(1) 運動への関心・意欲・態度

ア 創作ダンスの特性に関心を持ち、仲間とともに踊る楽しさ喜びを味わえるようにすすんで取り組もうとする。

イ 互いに動きのよさや感じ方、表現のよさなどを認め合い、協力して練習したり、発表したり、鑑賞したりしようとする。

(2) 運動についての思考・判断

グループや自分の課題に適した課題を持ち、その課題の解決をめざし、テーマに対してイメージを見つけ、イメージを設計書として作品にまとめるなど、計画的に練習を工夫する。

(3) 運動の技能

イメージが人に伝わるように、体を思い切り動かしたり、感じを込めて踊ることができる。

(4) 運動の知識・理解

創作ダンスの学び方や、よりよい動きについて知る。

4 単元の指導計画（8時間）

	1	2	3	4	5	6	7	8
学習内容	オリエンテーション 楽しくゆかいに踊りましょう。 (フォークダンス・現代的なリズムでのダンス)	夜の動物園	美しく青きドナウ	作品づくり	動きづくり・踊り込み			発表会
指導上の留意点	・学習のねらい、学習の進め方、約束事などを確認する。 ・ダンスを楽しみたいという雰囲気づくりをする	模倣から表現、そして創作への段階を踏んだ学習を進める。 テーマ設定、イメージづくりなどブレインストーミングを用いて設計書づくりを行わせる。	設計書づくり①	設計書づくり②	グループや自分の課題に適した課題をもち、その課題の解決をめざし自己またはグループの学習力を高める。			お互いを認め合う雰囲気づくり

5 本時の学習

(1) 本時の目標

運動の関心・意欲・態度	作品の完成に向けて仲間とともに協力して練習したり、作品づくりに取り組もうとする。
運動の思考・判断	テーマに添ったイメージを出し合い、そのイメージが伝わるような動きや動き方を工夫する。
運動の技能	イメージに合った動きを率直に表現し、仲間とともに動きを合わせて踊ることができる。

(2) 具体的評価規準

評価の観点	具体的評価規準		
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 「努力を要する」と判断された生徒への具体的な対応・手立て
運動への関心・意欲・態度	・すすんで声をかけ合い、仲間とかかわりながら踊る楽しさを味わうとともに、イメージや動きを広げることにつなげようとしている。	・仲間とともに心も体もダンスに向けて踊る楽しさを味わおうとしている。	・心と体を開放することで、踊る楽しさを味わうことができるよう言葉かけを行う。
運動についての思考・判断	・イメージの特徴や感じ方を、集団を生かして、空間の構成を工夫している。	・イメージにふさわしい動きの構成を考え工夫している。	・イメージが湧きやすい単純な言葉かけを行うことで動きを引き出す。
運動の技能	・イメージの特徴をとらえた動きを、全身を極限まで動かし、大きな動きで感じを込めて踊ることができる。	・イメージの特徴を意識して、見ている人に伝わるように大きく動いて踊ることができる。	・グループでの自分の役割を確認させ、「あと5cm」「全身を使って」などの具体的な言葉かけを行う。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	☆教師の評価 ○支援 ・留意点	備考
導入 10分	1 ウォーミングアップ	・ ダンスのUPを行う。	○ リズムに合わせて心と体を開放するための明るい雰囲気づくりをする。	学級ファイルの活用 太鼓学習プリント ボード 学習プリント
	2 あいさつ	・ 健康観察・点検等をリーダーが行う。	○ 活動に取り組む様子を見ながら、健康状態はリーダーの点検から、意欲の充実等は表情等から観察する。	
	3 課題の把握	・ 前時で出されたグループの課題を用意された用紙に記入し、ボードに貼ることで全体の前で確認する。	○ 前時で設定している課題を用紙に記入することによって再度確認させる。 ・ また、再度確認することから見えてくる個人の課題にも気付かせる。 ☆1 作品の完成に向けて仲間とともに協力して練習したり、作品づくりに取り組もうとする。(学習プリント)【関心・意欲・態度】	
イメージを出し合い、そのイメージが伝わるような動きや動き方を工夫しよう				
展開 35分	4 課題解決のための練習	・ 課題解決のために前時までに出来ているところを踊ってみる。グループの課題をもとに、どのような点に気をつけて踊るかを意識して練習する。	○ グループ毎の課題が、作品の完成に向けているものかどうかの見取りを行い、本時の学習課題を提示する。 ○ グループの課題を解決できるよう助言を行う。 ・ イメージしているような動きにするために指先や目線に注意させる。 ・ 完成度を高めるために、グループ内で見合うことをさせる。 ・ 完成まで到達させるために動きのモチーフを提示する。 ☆2 テーマに添ったイメージを出し合い、そのイメージが伝わるような動きや動き方を工夫する。(観察法)【思考・判断】	CDラジカセ カセットテープ
	5 学習の成果の確認	・ グループの動きをつなぎ合わせて、作品として完成に近づける。	○ 他のグループの動きを見て気付いたところを話し合わせる。 ・ 自分たちがイメージしているテーマに即しているかについて、肯定的な雰囲気で見つけた所を話し合わせる。 ☆3 イメージに合った動きを率直に表現し、仲間とともに動きを合わせて踊ることができる。(観察法・学習プリント)【技能】	
終末 5分	6 まとめ	・ 本時の振り返りをする。 ・ 次時の課題を設定する。	○ 練習した成果として、改善された点を確認し励ます。 ○ 自己評価カードにより、本時の学習課題、グループでの課題が達成させたかどうかの振り返りを行う。	学習プリント